

積極的な農業振興策は



浅沼 幸雄 議員

【質問】市内で生産される農産物の信頼性向上のため、農家や農業生産法人にJGAP認証推進の考えはないか。又、農業特産物の振興策は。

【市長】JGAPについては、JA野菜生産部会レタス班の有志が数年前から取り組んでいる。又、今年度からミニトマト「遠野レッド」も取り組みを開始した。消費者の信頼

を確固たるものにするため、この活動を継続、着実に推進拡大していくことが重要と考える。特産品の振興については、タラの芽は、面積・販売額ともに着実に増加している。冬場の雇用・所得確保に有望な品目であり今後力を入れていく。ブルーベリーも同様に着実に伸びてきており、今後さらに企業と農家等の共通認識を高めながら、情報交換、栽培技術の向上を推進し、遠野ブランドとして全国の消費者から認知されるよう支援を行う。山ぶどうは、平成17年度から面積は変わっていないが、19年度に販売した「遠野産山ぶどうワイン」が好評で、20年度は原料の山ぶどうの買い取り価格もアップし、21年2月には2,500本の販売を予定している。

【質問】現在進められている中学校再編成計画によると、宮守地区に設置される中学校の規模が小さく、将来的にまた再編が必要となることが予想される。その対策として西の玄関口である宮守町岩根橋や下郷地区に市営住宅を建設して市外からの転入を促進し、生徒数の増を図る考えはないか。

【市長】市営住宅の新設については、高規格道の利用形態、設置場所に対しての転入者のニーズ、遊休施設の跡地利用等も勘案して進める。

【その他の質問】「遠野物語」発刊100周年記念事業について

※JGAPとは…日本版GAP(適正農業規範)の略称



▲農家の所得向上が期待される農業特産物

遠野ハートフルプラン2009計画について



菊池 充 議員

【質問】2006計画が3年を経過しようとしており、新たな計画を策定することとなっているが、今日的な新たな諸課題や多様化する住民需要に対しどのように取り組もうとしているのか、次の3点について伺う。在宅福祉政策について、在宅介護における虐待は全国的な問題となっており、その対策としてのショートス

テイやデイサービスの受け入れ体制の充実について。地域福祉政策について、いきいきサロンのような地域で支え合う仕組みが必要と考えるが、人材の育成と確保を含めたこれからのあり方について。施設福祉政策について、在宅介護とともに施設介護は重要な課題であり、かつ遠野市の特別養護老人ホーム待機者189人の現状を踏まえ、介護施設のあり方と今後の整備計画の内容について。

【市長】虐待が起こる要因としては、認知症に対する理解が不十分であったり、在宅介護者の介護疲れが考えられる。ショートステイやデイサービスのより効率的な活用などを図り、介護者の介護疲れの解消を図る事業として実施している家族介護者交流事業については、更に介護者がリフレッシュできる場の事業の充実を検討する。いきいきサロンについては、事業の実施主体である社会福祉協議会と協力して地域ボランティア活動の推進によりサロン運営の人材確保を図るほか、介護予防活動への講師の派遣を行っていく。現在の介護保険制度では施設系介護施設を増やすことは、介護保険料の増額に直結する仕組みとなっている。遠野ハートフルプラン2009計画は、市民の意見や提言を計画に反映させるために委嘱した17人の委員による策定委員会での協議中である。施設整備についてはニーズを把握しながらこの協議結果を踏まえ検討する。



▲ふれあいホーム薬研淵での小正月風景